

2009年6月30日

関係機関長各位殿

「数学研究における雑誌の重要性について」のご理解のお願い

日本数学会理事会の声明「数学研究における雑誌の重要性について」

<http://mathsoc.jp/proclaim/suugakuzasshi.pdf>

皆様にご周知いただいておりますように、数学研究においては数学の図書、専門誌は極めて重要です。数学研究者は、専門誌に掲載された論文を通じて研究を進めております。大学院生の教育や若手研究者の成長にとっても重要な資源です。

かつては、それぞれの大学の数学教室がその教室の予算の多くをつぎ込んで、図書、専門誌を購入し、教育研究に役立てておりました。その後、多くの大学において、図書館の共通化が行われ、経費を削減するために、共通経費から図書、専門誌を購入するシステムがとられるようになりました。しかし、このような場合でも、歴史的に図書、専門誌に研究経費を当ててきた実績をもとに、数学に関する図書、専門誌の購入費用を維持されてきた大学が多いと存じております。このことは、数学は様々な理論の論理的な基礎を与えており、数学の専門誌は数学教室に所属しない研究者にもしばしば文献として参照されている事情を適切に反映しております。また、数学の図書、専門誌は大切に維持保存され役立てられてきました。電子ジャーナル化が進んでいる現在、数学の専門誌に含まれる数学への認知度は国際的に高まっていると認識しております。

昨今の学術雑誌価格の高騰のなかで、どの大学でもそれに対する対応に苦慮されていることは存じあげておりますが、その中で多くの大学での数学研究が苦境に立たされてきております。そこで、日本数学会理事会では、声明「数学研究における雑誌の重要性について」を数学教室のある大学の学長、図書館長、学部長、研究科長にお送りし、数学の専門誌の数学研究における重要性について再度ご理解とご確認いただくことにいたしました。各数学教室が購入している専門誌は、これまでにすでに重要なものに精選されてきていると存じますので、それをできるだけ維持できるようにご配慮をお願い申し上げます。

社団法人 日本数学会

理事長 坪井 俊